

Color Circle

Japan Association of Color Education

カラーサークル
復刊号
vol.01

2022年9月1日発行

カラーサークルの前身はCOLORという色彩情報誌であり、創刊は1949年です。55年に本タイトルに改題され様々な情報を掲載してきましたが、2014年で中断となっていました。それから8年経った今、復刻版として新たにスタートいたします。

Color Circle復刊のごあいさつ

日本色彩教育研究会会長 茂木一司

日本色彩教育研究会の会員の交流のための情報誌「カラーサークル」を長らく休刊にせざるをえなかったことを心苦しく思っていました。この度島田由紀子理事を中心として復刊していただけることを心より感謝しています。

2012年に日本色彩教育研究会会長をお引き受けして、次年度のカラーサークルに「1年間をふりかえり、明日への希望をかたる」という挨拶文を書きました。初年度に会のリニューアル、つまり発足の理念である図工美術教育の原点へ立ち返ることを周知させたいと思って、会則の整備、理事会の刷新、リニューアルシンポジウムの開催などを矢継ぎ早に実施しました。また、学習指導要領の改定に伴う「共通事項」の導入によりこの教科の根っこに色彩があることを思い起こし、これからのヴィジュアルカルチャー／デジタル時代にふさわしい新しい色彩教育の創出への希望を描きました。

あれから10年が過ぎ、この理念を踏まえて本部研修会ではさまざまな取り組みをし、リニューアルした機関誌『色彩教育』に反映させて参りました。私はアート／教育が在る意味とは、多様な感性をもつかけがえのない個人が感じ取ったささやかなものが大切にされること、それをアートは見える化し、私たちは社会とどのように向き合っていっていいのかを考え、そのことによって自分の存在の意味を確認できると考えています。色彩を学んでいると色同士が類似や対比の効果によって響き合い調和しながら、世界が必然的につながっているような感覚になります。そう、こんな風に私たちはひとりではない。大きなコスモスの中で、お互いに譲り合ったり主張したりしながら生きていくことを色を通して学ぶことができます。

会員の皆様、この会を顔が見える会にしていくために、生(活)に根ざしたアートとしての色彩の学びを実践研究していく共創の仲間になってください。カラーサークルは会員が色彩教育を通して、どんな立場で何をしようとしているのかの発信・交流の場になることを希望します。自分事として積極的な会の活用をお願い申し上げます。

復刊したColor Circleでは、こんなことをやっていきます！

読む

会員の方が専門とされる分野はさまざま。会員の皆様のお仕事内容のご紹介や、色彩の気になる話題について専門家に伺った記事など掲載します。

集う

Color Circleで取り上げたトピックについて、会員の方々が気軽にお話しに参加できるトークセッションをオンラインにて実施します。執筆者も交えて、より深掘りした内容も聞くことができます。

知る

メインのトピックの他に、会員の皆さまにつないでいただく「リレーコラム」や研究会の最新情報などもお知らせいたします。

今回のトピック

食と色、記憶と色 ―イメージの食とリアルな食―

食べ物は毎日見るものですが、実際目にする「食」の色とイメージの中の「食」の色の関係はどのようなものなのでしょう。今回は色彩研究者、写真家、フードコーディネーターの3人の会員の方に執筆をお願いしました。

食べ物の記憶色と色の知識の多彩さ

佐々木 三公子

心理実験における記憶色は、色名を答えたり色票から1色選んだりする方法が多く見られます。たとえばバナナの色を聞かれたときに多くの人は「黄色」と答えますが、「バナナ(の皮)として存在する色」を聞くと、その範囲は多様に広がりを見せます。未熟な状態の黄緑、完熟した黄色、熟しすぎた暗い茶色などが挙げられます。よく見る物体は、1色だけ記憶していても状態の変化によって物体をすぐに認識できなくなってしまうし、おいしい状態なのか、危険なのかなどの判断もできません。その状態や出会う頻度なども含めて色の分布が知識として記憶されていると考えられます。記憶色や典型的な色は、その中から出現率の高い色を思い浮かべているのではないのでしょうか。それだけではなく、自分にとって良い状態、つまりおいしそうな状態の色を記憶しているのかもしれませんが。カフェオレの色ってどんな色？麻婆豆腐の色ってどんな配色？思い浮かべる記憶色は、味の好みで変わるのでしょうか。



プロフィール

佐々木 三公子(ササキ ミクコ)

北海道大学大学院文学研究科単位取得退学 博士(文学)

一般財団法人日本色彩研究所 研究員(心理部門)

専門は色の記憶や物体の典型色、色のカテゴリー知覚

カフェラテよりカフェモカ派。麻婆豆腐は四川風が好き。

撮るべき想像性と食すべき創造性

明星 守

事実、食べるとは生きることです。ですから、まず重要なことは安全かどうか、その見極めが必要となります。それは、経験と五感をフル動員して判断をすることを意味します。この時、色は安全の為に、ひとつの情報にすぎません。では、安全が担保された食材はどうでしょう。ここでは、美味しいかどうかにかかってきます。この時、その色は美味しそうに見えるかどうか。美味しそうな色？ となります。では、写真でその美味さを伝えるには、美味しそうな色であれば、okなのでしょう。写真はあくまでもイメージです。食べることはできませんが、そこから食べる背景や状況を想像することができるのです。つまり、求める色は、その背景や状況を想像に値する色となります。であれば、美味しそうな色である必要性だけでもなさそうです。食する状況は、多種多様。食を撮影するとは、見る人が、なにを創造するか、そのきっかけを撮ることか・・・



画像提供：神戸基礎デザイン研究所@yocowak



画像提供：神戸基礎デザイン研究所@wan.yumiri



画像提供：神戸基礎デザイン研究所@negitizu



プロフィール

明星 守(ミョウジョウ マモル)

1958年 愛媛県生まれ

大阪芸術大学芸術計画学科卒

現在：神戸基礎デザイン研究所代表／京都龍谷大学非常勤講師／

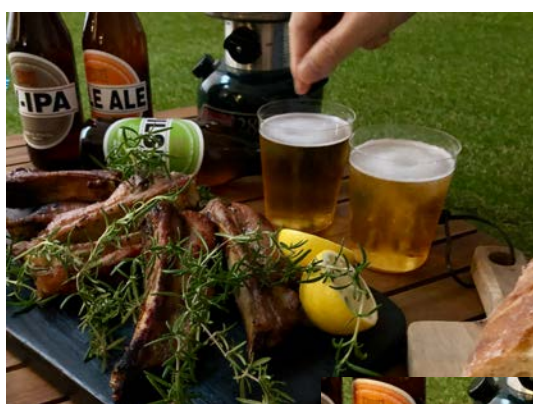
色彩士検定委員会 委員長／神戸北野異人館 風見鶏の館 館長

趣味：作品制作1985年より、個展、グループ展等

「おいしさ」と「たのしさ」を伝える映像・画像

サゴイ シオリ

料理撮影の現場でよく使われる「シズル感」という言葉は、SNSの発達とともに広く知られるようになりました。シズル感とは、照りや湯気のような「おいしそう」と感じさせる瑞々しい感覚のことです。撮影時には、乾いてきた食材の表面に霧を吹きかけたり、サラダ油やみりんを塗ってフレッシュさを取り戻したり、ビールに塩を加えて再び泡を起こすような工夫を施します。いかに「出来立て」を表現できるかが勝負なのです。また、熱々のステーキなど、ナイフを入れることで断面の様子や肉汁から食欲をそそる料理もあります。さらに、料理を取り分けたり、パンをちぎる様子など、手が映り込んだ写真は「料理を味わう場の雰囲気」をも伝えることができます。多くの人が「出来立てならではのおいしさ」や、誰かと食卓を囲む「共食のたのしさ」という幸福感を味わった経験があるからこそ、声が聞こえてきそうなシーンやシズル感のある映像・画像に魅力を感じるのだと思います。



プロフィール

サゴイ シオリ(サゴイ シオリ)

フードコーディネーター／食育コンサルタント／ワークショップデザイナー

「食」につながるアクションが人と人をつなぎ、豊かなときや関係性を育むことに注目し、【食のワークショップ】を幅広い世代へ向けて行う。

会員リレーコラム

色彩や教育に関するコラムを、研究会の会員でつないでいくリレーコラム。
トップバッターは大内啓子理事にお願いしました。

コラムNo.1

「いわぬ色」という色は？

皆さんは「いわぬ色」という色をご存じでしょうか。梔子(くちなし)色の別名になります。

梔子の花は真っ白な美しい花ですが、その実は鮮やかなオレンジ色。その梔子の実で染めた色が梔子色で、その染色は穏やかな黄色。新色名事典(日本色研事業株式会社)によると2Y8/6。古くから草木染の色として使われており、この「云わぬ色」という色名は、古今集や新古今和歌集の中にも登場しています。なぜ「云わぬ色」？ それは、「梔子」を「口無し」に掛けて口がないことから「云わぬ色」となったといわれています。この粋な表現に脱帽です。

「九重にあらで八重咲く山吹のいわぬ色をば知る人もなし」
円融院御歌、新古今和歌集 巻第十六

大内 啓子(オオウチ ヒロコ)
一般財団法人日本色彩研究所

知りたい・書きたい募集中です！

●色彩教育情報誌「Color Circle」で取り上げて欲しいトピックを募集中です。

こんなお仕事をされている方のお話を聞きたい、色彩や教育に関して仕事でこんなことに困っている・・・など、皆さまの「知りたい」を教えてください！ご自身のお仕事内容を紹介してくださる方も大歓迎です。

●会員リレーコラムのボタンを受け取ってくださる方を募集中です。

色にまつわる身近な疑問や知ってうれしい色の知識など、テーマは自由です。会員と気軽にお話しをする気持ちで、コラムを書いてみませんか？

応募方法：研究会事務局までメールにてご連絡ください。

ohuchi.hiroko@jcri.jp (大内)

sasaki.mikuko@jcri.jp (佐々木)

ご応募お待ちしております。

オンラインセッション 『色いろサロン』のご案内

本研究会の新しい試みとして、Color Circleで取り上げたトピックに関連するオンラインセッション『色いろサロン』を開催することとなりました。今回はテーマを、『食と色、記憶と色—イメージの食とリアルな食—』として、執筆者の3名にお話しいただく予定です。

『色いろサロン』では、登壇者の方へのご質問はもちろん、参加者同士で意見交換を行い、本研究会の会員同士のつながりをつくる場にしていきたいと考えています。

視聴のみのご参加でも大歓迎です。会員の皆様、並びに本研究会にご関心のある方々、奮ってご参加ください。

●日時：2022年9月30日（金） 20：00～21：30

●方法：ZOOMによるリアルタイム配信

●オンライントークの会の流れ

- ・ Color Circle vol.01のトピック執筆者による発表
佐々木三公子さん
明星守さん
サゴイシオリさん
熊谷佳子さん（進行）
- ・ トピックに関する質疑応答
- ・ 参加者全体、またはグループに分かれての意見交換

●参加費：

本研究会会員の方・・・無料
一般の方・・・1,000円
非会員のうち、学生で会員の紹介がある場合は無料
参加申込と同時にご入会いただいた場合は無料

●申し込み方法：以下のGoogle フォームからお申し込みください。

<https://forms.gle/N2N6KTKnyhFigtDK8>

参加申込・参加費納入期限：2022年9月28日（水）

⇒9月29日（木）にZOOMのURLをお送りいたします。

※ZOOMの案内メールが、迷惑メールへ届いてしまうケースがありますので、ご確認をお願いいたします。9月29日にメールが届かない場合は、恐れ入りますが、事務局までご連絡をお願いいたします。

※本研究会への入会方法、会費等については、研究会ホームページをご覧ください。
(下のQRコードからアクセスできます)

お問い合わせ先：日本色彩教育研究会事務局

ohuchi.hiroko@jcric.jp (大内) または sasaki.mikuko@jcric.jp (佐々木)



日本色彩教育研究会HP <http://shikikyo.jp/index.html>

発行人：茂木一司

製作：Color Circle編集委員会

(島田由紀子, 大内啓子, 熊谷佳子, 佐々木三公子, 手塚千尋, 名取初穂, 宮野周)

